

102

石橋フェスタ

開催日：平成30年10月13日(土)・14日(日)

開催場所：宇佐市院内文化交流ホール、宇佐市役所院内支所前広場、宇佐市山村開発センター



●実施状況

「日本一の石橋の郷」として知られる宇佐市院内町で、「石橋フェスタ」を初開催しました。

1日目は、市内小中学生の合唱や中学校吹奏楽部による吹奏楽の演奏、高校書道部による書道パフォーマンス、小中高生のダンスなど児童生徒のステージ発表及び、異文化交流としてペルー音楽の演奏を行いました。2日目は地元文化芸術団体によるステージ発表や、副城址跡と石橋・鏝絵を巡るバスツアーを行いました。バスツアーには県外からの参加者もあり、皆ガイドの説明を熱心に聞いていました。市内団体による食のブースは2日間共ほぼ完売し、ジビエ（しし鍋・鹿肉の竜田揚げ）やどじょうの唐揚げ、ペルー風カレー（アヒデガジーナ）も珍しく喜ばれました。

展示の部では、一般応募作品に加え市内の生徒児童の絵画・書道などの作品350点を展示しました。

2日間を通して、多くの方に文化・芸術・食に触れていただく良い機会となりました。

●プログラム

10月13日(土)

9:30~11:00 小中ふるさと音楽祭

10:00~13:00 つみ草体験料理教室

11:00~ 小学生餅つき体験

12:00~ 市長ギター演奏

12:15~ ペルー音楽演奏（パロミニ・ママニ・イルディフォンソ氏）

13:00~ ペルーの民族衣装を着て写真撮影

13:15~ 書道パフォーマンス（宇佐高校書道部）

13:45~ 吹奏楽演奏（安心院中学校吹奏楽部）

14:10~ ダンス（はあとバトン3名・D☆UP2名・B.Berry's11名・RICARDO3名）

14:25~ 吹奏楽演奏（西部中学校吹奏楽部）

14:50~ ダンス（はあとバトン3名・YU-KI11名・B.Berry's11名・KAMYU4名）

15:05~ 吹奏楽演奏（長洲中学校吹奏楽部）

15:30~ ペルー音楽演奏（YUSULPAY）

10月14日(日)

9:30~14:00 副城址・石橋&鏝絵巡りバスツアー

9:30~ ふるさと芸能祭（34組出演）

14:30~ 抽選会（特産品・日用品・電化製品等13本）

15:00~ 神楽&もちまき（安心院神楽保存会）

15:30~ 閉会

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 宇佐市 宇佐市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 石橋フェスタ実行委員会 いんない石橋の郷コンサート実行委員会 つみ草料理実行委員会 宇佐市文化協会院内支部 副城址まつり実行委員会 第33回国民文化祭宇佐市実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭宇佐市実行委員会

103

きらめきフェスティバル in USA

開催日：平成30年10月20日(土)～11月18日(日)

開催場所：宇佐文化会館、ウサノピアほか



●実施状況

「きらめきフェスティバル in USA (うさ)」では、障がいのある人もない人も一緒に作る喜びや感じる楽しみ、そして新たなきらめきと出会うことができる3つのイベントを開催しました。

「糸口ふれあい広場」では、社会福祉法人大分県社会福祉事業団の施設「八つ星の丘」にて、糸口太鼓や認定こども園等によるステージイベントのほか、障がいのある方が作った商品の販売などが行われ、1,000人を超える方に来場いただきました。

障がい者アート展「ぼくらがキリトル世界」では、宇佐市民図書館のエントランスの空間を使って、一般応募の中から入選された47作品のほか、福祉事業所等とコラボした作品を展示しました。11日間の開催で延べ約6,600の方が鑑賞され、アーティストたちの個性豊かな作品に触れていただく機会となりました。最終日には授賞式が行われ、市長賞等に選ばれた6名の方に賞状が授与されました。

「アートピア」では、ソプラノ声楽家として活躍されている京都府出身の青野浩美氏をお招きし、「前例がなければ作ればいい」と題したトーク&コンサートを開催しました。気管切開手術を受け、スピーチカニューレ（発声用の人工管）を使用して歌っているとは思えないほどの力強い歌声と楽しいトークで、

最後は参加者全員で合唱し、笑顔溢れるコンサートになりました。会場の横では、バルーンアートやオリジナル缶バッジ、プラバンのワークショップ（創作体験コーナー）を行い、参加者がアートに触れ、つくる楽しみを体験していただく良い機会となりました。

●プログラム

- 10月20日(土) 糸口ふれあい広場
ステージイベント、販売・展示コーナー、味のコーナー
- 11月7日(水)～18日(日)
障がい者アート展「ぼくらがキリトル世界」
- 11月18日(日) アートピア
障がい者アート展表彰式、トーク&コンサート、ワークショップ

●表彰

市長賞1名、議長賞1名、教育長賞1名、奨励賞3名

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 宇佐市 宇佐市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭宇佐市実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭宇佐市実行委員会 糸口ふれあい広場実行委員会

104

よこみつりいち

横光利一俳句大会

開催日：平成30年11月24日(土) (横光利一資料展：10月27日(土)～11月25日(日))

開催場所：宇佐文化会館・ウサノピア、宇佐市民図書館

出会の場

祈りの谷

豊かな浦

耕す里

水の森



●実施状況

宇佐市では、市ゆかりの作家・横光利一の顕彰と、地域の文化振興に寄与することを目的に「横光利一俳句大会」を毎年開催しており、平成30年度は全国や海外から7,275句（応募人数2,994人）の応募がありました。

入賞部門は「一般の部」と「中学生以下の部」に分かれており、写真家で俳人の浅井慎平氏と俳誌「花鶏（あとり）」を主宰する俳人の野中亮介氏により、「特選」20句の他、「秀作」「佳作」を合わせ306句を選定していただきました。

宇佐文化会館（ウサノピア）大ホールで行われた表彰式では、大分県知事賞をはじめとした表彰と句の発表、選者の対談形式による講評が行われ、選句についての解説や選考理由が紹介されました。

また、第二部では国民文化祭の特別イベントとして、テレビでおなじみの夏井いつき氏による、たくさんの人たちが一緒に楽しめる「句会ライブ」を開催しました。

俳句を作ったことがない人でも「取り合わせ」という技を一つ覚えれば、5分で一句作ることができるという夏井氏の俳句作りについての楽しいトークのあと、早速会場全員で5分での俳句作りに挑戦しました。

全員参加で集められた俳句は、夏井氏がすべて目を通した後、7句が選句されステージのスクリーンに映されました。選ばれた俳句は、参加者の自

由な解釈を元に夏井氏を中心に議論が進められ、最終的には夏井氏ではなく、参加者でグランプリを決めるというゲーム感覚で行われ、俳句作りの面白さや楽しさを体験する事ができました。

また10月27日から11月25日にかけて、宇佐市民図書館で開催した「横光利一資料展」にも多くの方が訪れ、横光利一の功績を知っていただく良い機会となりました。

●プログラム

- 13：30～ 第一部
第20回横光利一俳句大会 表彰式
14：00～ 選者（浅井 慎平氏、野中 亮介氏）による対談形式の講評
14：30～ 第二部 夏井いつき「句会ライブ」
16：30 閉会

●表彰

〈一般の部・中学生以下の部〉

特選（横光利一俳句賞、大分県知事賞等）・秀作・佳作

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 宇佐市 宇佐市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭宇佐市実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭宇佐市実行委員会 豊の国宇佐市塾

105

大正琴の祭典

開催日：平成30年11月11日(日)

開催場所：宇佐文化会館・ウサノピア



●実施状況

「大正琴の祭典」は「八幡さまのふるさと宇佐の地で響く大正琴の音色」をサブテーマに、全国各地より大正琴愛好者が集う一般の部と、「平成30年全国子供大正琴コンクール」の最終選考会である子供の部の二部構成で開催しました。

一般の部には大分県をはじめ九州各県からの参加を中心に、1府6県から14団体515名が出演。30名以上で演奏する大正琴アンサンブルの豊かな音色で、歌謡曲などの親しみあふれるメロディーを奏でました。各団体は、生涯学習活動の発表の場だけでなくお互いの演奏を聴き合うことで今後の演奏活動の励みを得ていました。

子供の部では高校生以下の、ソロ部門A・B、アンサンブル部門A・Bの4部門に分けて審査を行い、今回は52団体248名の応募の中から、一次審査の上位13団体51名が本祭典に出場。文部科学大臣賞を目指し、演奏を競い合いました。

「子供たちが目標を持って大正琴に接する機会を増やし、大正琴音楽の魅力を体感してもらう」という目的の達成はもとより、子供たちが演奏に一心に取り組む姿は、大人の愛好者にも感動を与え、大正琴の魅力を改めて認識させるものでした。また、子供たちが修練を重ねた技術は大正琴の新しい音楽表現につながるものでありました。

今回の開催により、地域を越えた愛好者の交流、また若年愛好者から高齢愛好者までの世代を超えた交流が生まれ、来場者と共に音楽を共有することで、大正琴の音楽文化を広く伝える素晴らしい機会となりました。

●プログラム

- ・一般の部
出演者：県内6団体(243名)、県外8団体(272名)、計14団体(515名)
演奏曲目：28曲
- ・子供の部
応募者：県内2団体(28名)、県外50団体(220名)、計52団体(248名)
演奏曲目：52曲
出演者：県内1団体(7名)、県外12団体(44名)、計13団体(51名)
演奏曲目：13曲

●表彰

- 子供の部
文部科学大臣賞
ソロ部門A(12歳以下)
ソロ部門B(12歳を超える)
アンサンブル部門A(平均年齢が12歳以下)
アンサンブル部門B(平均年齢が12歳を超える)

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 宇佐市 宇佐市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭宇佐市実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭宇佐市実行委員会 公益社団法人大正琴協会

106

宇佐市幼児音楽祭

開催日：平成30年11月17日(土)

開催場所：宇佐文化会館・ウサノピア



●実施状況

開催が10回目の節目を迎えた「宇佐市幼児音楽祭」。今回は、市内の13園（私立10園、公立3園）が参加し、合奏・太鼓・マーチング・オペレッタ等の演目が披露されました。

この日のために一生懸命練習してきた音楽活動の成果を、家族や地域の方々といった大勢の前で発表することは、子どもたちにとって貴重な経験となったとともに、世代を超えての交流や親睦を深める場として、大変意義深いものとなりました。

今回は国民文化祭の特別企画として、例年のプログラムに加え、次世代を担う子供たちの豊かな心を育む活動をされている公益財団法人アルゲリッチ芸術振興財団の若手演奏家4名を招聘しました。

ミニコンサートでは、ミッキー・マウス・マーチ他7曲が演奏され、園児達の元気な歌声と演奏が一体となり会場全体が感動の渦に包まれました。

子どもたちの豊かな心、健やかな成長に寄与し、未来を担う明るく元気な子どもたちの成長につながる音楽祭となりました。

●プログラム

- 1 普照こども園（踊り・和太鼓）
- 2 豊川こども園（リズム「エルクンバンチェロ」他）
- 3 栗島愛児園（マーチング）

- 4 宇佐こども園（和太鼓）
- 5 封戸保育園・みどり保育園・竜東保育園（オペレッタ）
- 6 金屋保育園（合奏）
- 7 高森保育園（リズム）
- 8 高家保育園（マーチング）
- 9 慈光保育園（オペレッタ）
- 10 四日市こども園（合奏・踊り）
- 11 泉光こども園（リズム）
- 12 (公財)アルゲリッチ芸術振興財団協力コンサート（カルテット）
ナウシカ レクイエム
クラリネット作っちゃった
四季メドレー
山の音楽家
口笛吹きと犬
さんぽ
ホール・ニュー・ワールド
ミッキー・マウス・マーチ

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 宇佐市 宇佐市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭宇佐市実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭宇佐市実行委員会 宇佐市幼児音楽祭実行委員会

107

祈りの谷～くにさき展～

開催日：平成30年10月6日(土)～11月25日(日)

開催場所：国東市歴史体験学習館



●実施状況

エリア別テーマ「祈りの谷」に合わせて、祈りの谷「くにさき」展として、くにさきの信仰に関連する文化財を中心に展示を行いました。奈良時代から近世にかけての、彫刻（仏像・神像）、絵画、工芸品、典籍、古文書などを展示しました。

宇佐神宮、弥勒寺の強い影響を受けた六郷山の成立や、豊後大友氏、その大友氏の有力家臣であった田原氏などが盛んに建立した禅宗寺院。また近世における浄土信仰の浸透と、民間信仰の広がり、さらにはカトリック教会の福者であるペトロ岐部の生涯など、ご来館いただいた方々には、神道、仏教、キリスト教など宗派は違えども、くにさきに根付いた尊い信仰の歴史を感じていただけたのではないかと思います。

●展示内容

奈多宮木造神像

平安時代後期 大分県指定有形文化財

木造観音菩薩立像

12世紀 大分県指定有形文化財

木造地藏菩薩立像

12世紀末 大分県指定有形文化財

木造阿弥陀如来坐像

永仁2(1294)年 大分県指定有形文化財

木造十一面観音立像

鎌倉時代後期～末期 大分県指定有形文化財

石造十王坐像・俱生神立像

明德4(1393)年 大分県指定有形文化財

木造釈迦如来坐像

南北朝時代 国東市指定有形文化財

木造阿弥陀如来立像

南北朝時代 国東市指定有形文化財

泉福寺正法眼蔵抄

大分県指定有形文化財

岐部文書

室町時代 大分県指定有形文化財

ほか20件

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 国東市 国東市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭国東市実行委員会

108

国民文化祭バスの旅～国東おだやか博～

開催日：平成30年10月7日(日)～11月23日(金・祝)

開催場所：国東市一円



●実施状況

美しい山や海、四季折々の素晴らしい自然に囲まれ、独自の神仏習合文化が根付く国東市。国東市では平成25年より国東ならではの「おだやかな時間、おもてなし」を体験していただくこと、多彩な約30の体験型プログラム「国東おだやか博」を実施しています。

国民文化祭が大分県で開催され、国東半島六郷満山開山1300年を迎える今回、「国東おだやか博」の中でも特に国東の魅力が味わえるプランを7つご用意し、気軽に参加できる少人数制バスツアーを開催しました。国東の象徴である寺院の観光といった定番のものだけでなく、近年栽培されているくにさきオリーブや国東でのみ栽培される七島蘭を使ったオブジェ制作といった他ではできない体験を楽しめるものや、昼食は「くにさき神仏料理」を召し上がることが出来るプランも用意しました。

7つのプログラム全体を通して、県内外から幅広い年齢層のお客様にご参加して頂き、まだ知られていない国東の魅力を存分に味わって頂きました。また、プログラムによって全く違う角度から国東を体感できる内容になっているため、複数の日程に参加されるお客様もいらっしゃいました。

このツアーを通して、普段から慣れ親しんだ地域資源（自然、農業、伝統工芸、歴史遺産、食文化など）の更なる開拓、観光促進ができ、カルチャーツーリズムの可能性を広げられました。

●プログラム

秋のくにさき2大名刹めぐり～両子寺・文殊仙寺～（10月7日）/世界農業遺産 ため池ウォークと西の関 酒蔵見学（10月8日）/世界農業遺産 くにさきオリーブ体験（10月21日）/世界農業遺産 七島蘭オブジェ作り（10月28日）/伝統工芸～くにみ アートの旅～竹玉ネックレス制作（11月4日）/泉福寺 本格坐禅と写経体験（11月18日）/六郷満山の聖地 東の不動トレイル（11月23日）

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 国東市 国東市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭国東市実行委員会 一般社団法人国東市観光協会

109

くにさき伝統芸能ライブ「鬼・鬼・鬼ときどき龍」

開催日：平成30年10月21日(日)

開催場所：武蔵セントラルホール



●実施状況

国東半島に残る「鬼」や「龍」(蛇)の伝説。それは人間が絶対になかない自然の脅威を、あるときは神の使いとして、またあるときは神に昇華するものや神そのものとして、人々は「畏れ」「敬い」「祈り」の対象としてきました。その「鬼」「龍」(蛇)の演目を持つ11団体により、「鬼・鬼・鬼ときどき龍」と銘打った伝統芸能ライブを開催しました。

おおいた大茶会のテーマ「老若男女、障がいのある方もない方も誰もが参加し楽しむ」をベースに企画したこの事業は、「出演者の年齢、性別、地位や立場を問わず」下は保育園児や小学生から上は70代の高齢者、そして障がい者施設利用者、移住した地域おこし協力隊の参加、そして主催者である市長をはじめ来賓の方々にも鬼や龍に扮して会場の盛り上げに一役買っていただくなど、固定観念にとらわれない運営を心がけました。

それぞれの団体の熱演が他の団体を刺激し高め合うミックスアップ効果により、互いに研鑽を積むとともに、なにより芸能継承団体と障がい者との共同参加を実現させたインクルーシブの取り組みは、伝統芸能の素晴らしさを伝えるということだけでなく、今後障がい者の生涯学習への積極的

参加を促進させるという大きな意味を持つものとなりました。

また、公演時間6時間という長丁場のなか、会場ではくにさき地域応援協議会「武溪の会」、移住起業家、各福祉施設などにより、来場者用の昼食や、手作りパン、お菓子や加工品などの販売も行われ、来場者との交流を図るとともに、各事業者の事業内容を広く知らしめる機会となりました。

●出演団体

武蔵西小学校：蛇谷太鼓/富永神楽保存会：御導先(みさき)/小原小学校：七巻様伝説/国東半島六郷鬼龍太鼓：邪心討滅/国東小学校：荒溪龍退治物語/国東神楽社：御幸(みさき)/岐部子ども獅子舞保存会：岐部子ども獅子舞/社会福祉法人秀溪会秀溪園(supported by手野神楽保存会)：KOUJIN/内田太鼓保存会：龍神物語、龍神太鼓/武多都神楽保存会：四ツ鬼/手野神楽保存会with地域おこし協力隊：大蛇退治

●主催者

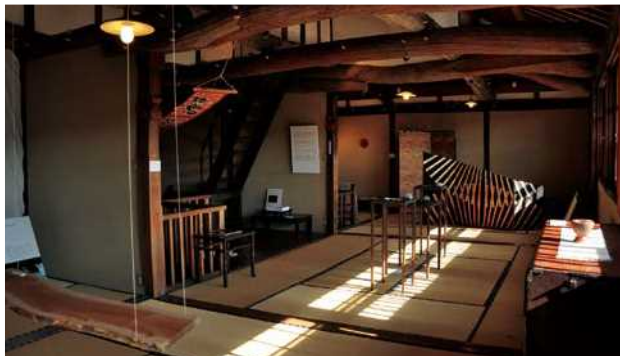
文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 国東市 国東市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭国東市実行委員会

110

国東の恵みと作る人と

開催日：平成30年11月1日(木)～25日(日)

開催場所：湊音寮



●実施状況

国東市国見町に住む作家たちによるアート作品展の開催と、島根県より「群言堂（ぐんげんどう）」を主宰する松場大吉、登美夫妻を招いて「辺境の地で暮らすこと」をテーマにした講演会を開催しました。

作品展のコンセプトは「国東の素材（恵み）を作家たちはどのように作品に昇華しているのか。そして国東の何を素材とするのか」というものでした。

作家たちが意外なものまで素材とし制作していることを伝えることで、普段どのような視点でものを作っているのか、その一端を検証するとともに、作品を作る上で用いる道具を展示し、制作の背景も垣間見えるよう配慮しました。

この展示により、国東半島が自然も人もいかに豊かであるかを再認識できたと同時に、鑑賞者が国東の素材（恵み）と作品に対峙することで、新たな国東の魅力を感じられたのではないかと思います。

また、群言堂を主宰する松場夫妻の講演会では、現代社会から忘れ去られた古きモノやコトに対し、新しい価値を吹き込み活かしていく意義についてお話しいただきました。

全国的な人口減少、過疎化が進むなか、なぜ島根県大森地区（群言堂本社所在地）に若い家族の移住や世間の注目が集まるのか。持続可能な暮らし方を

実践していくことを提唱し、国東市国見町をはじめロケーションが似かよった多くの地方において、地域づくりのヒントとなる講演会となりました。

●出展作家

秋本 順子（金工）/岡 美希（陶芸）/小野 豊一（染色）/垣野 勝司（陶芸）/くにさき六郷舎（木工）/重光 哲雄（竹工芸）/手島 寛子（陶芸）/中野 直美（ガラス工芸）/中野マーク周作（陶芸）/福永 泰信（陶芸）/三村 竹萌（竹工芸）/和田 圭介（表装）/和田 木乃実（表装）

●プログラム

11月1日（木）～25日（日）

国東市国見町在住の作家たちによる作品展

11月10日（土）

群言堂 松場大吉、登美夫妻 講演会

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 国東市 国東市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭国東市実行委員会 国見アートの会

111

むじゃき 無邪鬼という名の作品展

開催日：平成30年11月14日(水)～21日(水)

開催場所：国東市武蔵保健福祉センター



●実施状況

「無邪鬼という名の作品展」と題し、まず、国東市内の障がい者支援事業所（秀溪園、三角ベース、福聚荘）の合同ワークショップによる作品作りから取りかかりました。

合計9回にも及んだ合同ワークショップは、各施設への相互訪問という通常ではなかなか実現しない状況を、各施設の協力により実現し、利用者・職員ともに交流しながら楽しく実施しました。

ワークショップ指導者として、市内在住の画家廣岡茂樹氏、イラストレーター中野伸哉氏に協力を仰ぐとともに、フォトグラファー谷知英氏によりワークショップの風景を写真に収めていきました。

当初は作品のテーマを決めていたのですが、創作活動を狭めることになるため、方針を「自由に描きたいものを描いてもらう」という個性重視に転換した結果、思いのほか多く400点の作品を制作することができました。

展示は、指導者の厳選により、約100点に絞り込みました。

この作品展のもうひとつの重要なポイントは、利用者の方々、施設、ご家族のご協力のもと、無邪気で真剣に創作活動に取り組む利用者たちの顔

を撮影した写真を作品として展示したことにあります。我々が忘れていた無邪気な笑顔の写真は、障がい者芸術への理解を深めていただくきっかけ作りとなりました。

また、本作品展と同時開催で、「祈りの一文字コンテスト」も実施しました。

現代社会において、ともすれば置き去られている「祈る」という行為を考えることで、人やモノに対する感謝の気持ちを感じるきっかけを作ってほしいという趣旨で、「祈る」という行為から連想する一文字とその理由を募集しました。

作品については審査を行い、受賞作品を決定し表彰するとともに、入選以上の作品については「無邪鬼という名の作品展」との同時展示により集客効果を狙いました。

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 国東市 国東市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭国東市実行委員会 国東半島あいリネサンス連盟

112

映画「幸福は日々の中に。」上映会& 福森伸、二宮圭一特別トークライブ

開催日：平成30年11月16日(金)・17日(土)

開催場所：くにさき総合文化センター、武蔵保健福祉センター



●実施状況

今回の国民文化祭は同時に障がいの芸術・文化の祭典でもあることから、障がいについての理解を深めようと、障がい者施設を舞台とした「幸福は日々の中に。」という映画上映を企画しました。

映画の監督はヴェルナーペンツェルと茂木綾子という数年前、国東半島芸術祭に参加したアーティストで、国東市に多少の縁を感じていました。

モノを創り出すアーティストである彼らが心を動かされたしょうぶ学園の取り組みを探ると、統括施設長の福森伸氏の障がいに対する考え方に必然的にたどり着きました。

そこで、福森氏にトークを依頼するとともに、もうひとつ、「日常～めぶき園を訪ねて～」という障がい者施設を舞台とした映画を撮影した、大分県内でも活躍されている画家二宮圭一氏にトークライブのコーディネーター役をお願いしました。

映画の内容も相まって、トークライブは福祉の範疇を越え哲学や心理学の内容も含み、我々が福祉や障がいに対する常識と思われていたものをことごとく覆す、むしろ理にかなった内容で、素晴らしく濃いものとなりました。

参加された方々は、自らが障がいについて考える非常に良い機会になったのではないかと思います。

会場には別事業において制作された障がい者作品を展示し、上映前に来場者が鑑賞する時間を創出するとともに、上映会はその作品に囲まれた中でというシチュエーションを実現しました。映画の中でも制作されていたしょうぶ学園利用者の作品紹介のコーナーも設け、来場者の多くが関心を示していました。

●プログラム

11月16日(金)	13:30	1回目上映
	17:00	2回目上映
11月17日(土)	13:00	中野 伸哉氏講演会
	13:30	1回目上映
	17:00	2回目上映
	18:15	福森 伸氏、二宮 圭一氏 トークライブ

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 国東市 国東市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭国東市実行委員会

113

第17回大浪曲大会 - おおいた文化の祭典 -

開催日：平成30年11月18日(日)

開催場所：くにさき総合文化センター



●実施状況

日本の伝統芸能である「浪曲」に多くの方が楽しみ親んでもらうことで、そのすばらしさを再認識してもらうとともに、後世にしっかりと引き継いでいくため、「第17回大浪曲大会」を国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭「おおいた文化の祭典」事業として開催しました。

活躍中のプロの浪曲師、三味線師を招聘し、質の高い浪曲を披露してもらうとともに、浪曲教室では、来場者(2名)にステージに上がってもらい、プロの浪曲師の指導の下、実際に声を出して稽古するなど、浪曲の楽しさ・面白さを観客の皆さんも含め体験してもらいました。また、プログラムの中に方言丸出し弁論や手品など、浪曲以外の催しも取り入れ、楽しんでいただきました。

当日は、県内各地から約600人、県外から約30人の方々に来場いただき、大変盛り上がった大会となりました。

これからも浪曲を愛し、愛好家を増やし、益々“どっこい生きてる、ナニワ節”と謳歌していきます。

●プログラム

- 11:00 ・開演
- ・ものまねショー
 - ・方言まる出し弁論
 - ・演歌
 - ・浪曲教室
 - ・歌謡浪曲「決闘高田の馬場」
「蝶柳ものがたり」
 - ・浪曲劇「柳原白蓮」
 - ・大形マジックショー
 - ・浪曲「稲川江戸日記」
「中山安兵衛婿入り」「臉の母」
 - ・終演

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 全日本浪曲愛好会

開催日：平成30年10月21日(日)～28日(日)

開催場所：離島センター「やはず」



●実施状況

第33回国民文化祭おおいた2018、第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会の姫島村分野別事業の1つとして、「障がい者芸術作品展」が、「姫島車えび祭」当日の10月21日から28日の8日間、離島センター「やはず」のロビーで開催されました。

県内在住の障がいのある方々が、個性を生かし、日頃から技術を磨き、制作した作品は、絵画や切り絵に加え、「キツネ踊り」「タヌキ踊り」を題材にしたミニチュアの陶芸作品、丸みのある石に動物の顔など、様々な創意工夫がこらされ、見応えのある作品展となりました。

期間中は272名の皆さんが来場し、作品を写真やビデオに収めながら、興味深く鑑賞していました。

姫島村でこのような障がい者の芸術作品展の開催は初の試みでしたが、村民の方々を中心に、普段触れることの少ない芸術作品の鑑賞をしていただくことで、豊かな感性・想像力の育成といった成果を得られました。また、その作品の制作者である障がいのある方及び「障がい」への理解を深める大変良い機会となりました。

●プログラム

大分県内で芸術文化活動に取り組んでいる15名の障がいのある方の芸術作品の展示

(佐藤 龍男さん/西脇 瑛希さん/原野 彰子さん/河野 龍児さん/中島 眞一さん/中野マーク周作さん/小間 望美さん/安部 侑朔さん/小野 天哉さん/後藤 春枝さん/赤嶺 勝朗さん/桑原 茂明さん/姫野 暁さん/藤田 望人さん/甲斐 瞳さん)

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 姫島村 姫島村教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 「第33回国民文化祭おおいた2018」、「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」 姫島村実行委員会

115

姫島の魅力を見て食べて！

開催日：平成30年11月3日(土・祝)・4日(日)、10日(土)・11日(日)

開催場所：姫島港船客待合所、おおいた姫島ジオパーク拠点施設「天一根」、老人憩いの家「白寿苑」ほか



●実施状況

姫島の歴史、文化等について知り、風景を眺め、郷土料理を楽しんでもらう「姫島の魅力を見て食べて！」が11月3日・4日、11月10日・11日の4日間行われました。

11月3日と10日に「ジオクルーズ」が開催され、2回のクルーズに約100名の方が参加し、ジオガイドさんの説明を受けながら、海の上から姫島の色々な姿を楽しみました。

11月4日と11日には、ジオウォークと郷土料理の体験及び試食会が開催されました。「ジオウォーク」では、ジオサイトや観光スポットをバスで巡り、姫島の歴史・文化等についてジオガイドさんが説明しました。参加者の皆さんは、西浦漁港から観音崎を眺めた後、西村記念公園まで歩き、最後におおいた姫島ジオパークの拠点施設「天一根」を見学して、ジオウォークを終えました。

郷土料理の体験及び試食会は「白寿苑」で開催され、2日間で約300名の皆さんが会場を訪れました。「鯛めん」「鯛めし」「いもきり」「かんころ餅」「なっとうみそ」の試食が行なわれ、多くの皆さんが、笑顔で姫島の郷土料理を味わっていました。また「いもきり」と「かんころ餅」の料理体験に参加した皆さんには、老人クラブの会員さんが、包丁さばきや、

生地の丸め方などの手ほどきをしました。

離島センターでは、「茶道講座」受講生の皆さんによるお茶会も同時開催され、来場者の方々にお茶を振る舞いました。

姫島の食や風景、歴史、文化等、姫島の魅力が色々な角度からPRされ、地元老人クラブの方と姫島の伝統料理を調理し、地域の伝統・文化を守るきっかけとなる大変有意義なイベントとなりました。

●プログラム

- 1 村営フェリーにて姫島を一周するジオクルーズ
- 2 島内のジオサイトをジオガイドと共に巡るジオウォーク
- 3 姫島の郷土料理（いもきり、かんころ餅）の調理体験
- 4 姫島の郷土料理（鯛めん、鯛めし、いもきり、かんころ餅、なっとうみそ）の試食

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 姫島村 姫島村教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 「第33回国民文化祭おおいた2018」、第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会 姫島村実行委員会

116

ひじはく

開催日：平成30年10月6日(土)～8日(月・祝)、20日(土)、11月1日(木)～25日(日)

開催場所：日出町内各所



石の歴史 文化公開体験プラン



竹のスタードームづくり



的山荘でリトリート～座禅とヨガ～



竹の調べライブ



着物ファッションショー



能観劇とお茶席

●実施状況

日出町の食・自然・歴史文化を満喫できる体験プラン「ひじはく」。今回は通常のプランに加え、文化祭特別企画として7つのプランを実施しました。

「石の歴史 文化公開体験プラン」では、滋賀県立大学中井均教授による歴史講演会と、国内最大規模の巨大割石がある「鳥居石石丁場跡」での石割実演及び体験を実施しました。

「竹とユーカリのスタードームづくり」では、国の重要文化財にも指定されている「的山荘」の庭園で、別府大学講師で美術家の伊藤氏、竹藝家の小島氏指導のもと、竹とユーカリを使ったドームづくりを行いました。

「的山荘でリトリート～座禅とヨガ～」では、的山荘庭園にて、日出町羯諦寺の河野紹眞住職による坐禅と、小林千恵子氏によるヨガを行い、美と癒やしのひとときを過ごしていただきました。

「竹の調べライブ」では、同じく的山荘庭園にて、演奏ユニット「アルカディア」による、竹の弦楽器（チェロ・バイオリン・ベース）と竹の管楽器パンフルートのアンサンブルを聴いていただきました。

「着物ファッションショー」では、町内の「西教

寺」を舞台として、3歳の子どもから50代までのモデル19名と別府溝部学園短期大学、立命館アジア太平洋大学（APU）の学生による、個性あふれる着物ショーを実施しました。

「竹アートオブジェ展示」では、「糸ヶ浜海浜公園」の砂浜に、町内の竹工芸家川島茂雄氏、諸富京子氏、神園祐志氏、小嶋力氏の共同制作による竹製の巨大オブジェを展示しました。

「能観劇とお茶席」では、藩主ゆかりの神社「日出若宮八幡神社」を会場に、観世流シテ方準職分宮本茂樹氏による能楽の公演とワークショップを行うとともに、表千家茶道教授の造士宗静氏によるお茶会を開催しました。

日出町の名所旧跡を会場としたこれらの体験プランはいずれも好評で、今後の観光コンテンツとしても大いに期待が持てるものとなりました。

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 日出町 日出町教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭日出町実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 日出町観光協会

117

世界のヒョウタン展～人類の原器～

開催日：平成30年10月6日(土)～21日(日)

開催場所：日出町交流ひろばHiCaLi



●実施状況

ヒョウタンは1万年以上にわたって栽培され、水入れ、酒器、装身具の生活用品から楽器や祭器まで、多岐にわたり世界中の人々に利用されてきました。

本事業では、進化生物学研究所長湯浅浩史氏が世界中を巡り、収集した世界の珍しいヒョウタン380点余りと全日本愛瓢会会員の作品70点を「交流ひろばHiCaLi」において展示しました。14日間で延べ5,000人以上の方々に鑑賞していただきました。

あわせて、日出町内の障がい者支援施設に通所・入所している障がい者の方々33人が3カ月間をかけてヒョウタンに色づけをしたり、紙を貼ったりして制作した、ネズミ、花瓶、菓子入れなど約80点の作品を展示しました。

10月6日のオープニング行事では、本田博文日出町長や湯浅浩史所長を始め、森昭人日出町議会議長、時田勉全日本愛瓢会長らが出席して、華々しくテープカットを行いました。

10月7日には、日出町中央公民館ホールで湯浅浩史所長を講師に招き、世界のヒョウタンの珍しい利用法など、スライドを交え講演をしていただきました。

講演会場には120人を越える皆さんが県内外から集まり、興味深く聞いておられました。

10月14日には、展示会場においてヒョウタン作りのワークショップも開催し、30人の方が熱心に取り組みました。

来場された皆さんからは「感激しました」「素晴らしい」などの意見が口々に聞かれ、生活の中に溶け込んだ色々な利用方法を知り、感激していました。

●プログラム

- 1 世界のヒョウタン展示
(10月6日(土)～21日(日) 交流ひろばHiCaLi)
- 2 記念講演 演題「世界のヒョウタン文化」
講師：湯浅 浩史
(10月7日(日) 日出町中央公民館)
- 3 ヒョウタンづくりワークショップ
(10月14日(日) 交流ひろばHiCaLi)

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 日出町 日出町教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭日出町実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 特定非営利活動法人全日本愛瓢会

118

ザビエルの道ウォーキング大会

開催日：平成30年10月21日(日)

開催場所：大田公園ほか



●実施状況

日出町は日出藩家老であり、キリシタンでもあった加賀山半左衛門とその息子ディエゴが殉教したことに由来する殉教公園や、イエズス会ローマ本部から寄贈されたザビエルの聖遺物を展示しているトラピスト修道院などがあり、キリスト教との関わりの深い町です。

かのフランシスコ・ザビエルも、1551年、府内（現在の分市）の大友宗麟の招きに応じ、杵築市山香町から日出町豊岡に至る西鹿鳴越道を通り、日出の港から船で府内入りしたといわれています。

「ザビエルの道ウォーキング大会」は、このような日出町の歴史を背景として毎年開催されており、平成30年で13回目を迎えました。

ザビエルが歩んだとされる道を辿りながら日出町の歴史・文化を学ぶことができるほか、別府湾や鹿鳴越連山など素晴らしい自然景観が堪能できることから、毎年多くのウォーキング愛好家が参加している人気のイベントです。

今回は文化祭企画として、ザビエルの通った道だけでなく、町内の神社仏閣を巡り、偉人達の残した祈りや歴史をこれまで以上に感じることが出来るコースを新たに設定しました。

当日は好天に恵まれ、多くの参加者が新たなコー

スに挑戦しました。参加者からは「楽しかった」「昨年度と比較して歩くコースが分かりやすかった」「まだまだ歩けたなあ」など、好評でした。

また、本事業は各種地域団体の協力のもと開催していますが、特に豊岡地区婦人会の「ちりめんごはん」のふるまいが好評を博し、参加者から「美味しかった」「もっと食べたい」との声が多く寄せられていました。

●プログラム

- ・開催日時 10月21日(日) 8:30~14:00
- ・会場(スタート・ゴール) 大田公園
- ・コース Aコース20km Bコース12km Cコース5km
- ・受付時間 7:40~ 各コース出発式まで
- ・出発式 A、Bコース8:30~、Cコース9:00~
- ・各コース終了時間目安(アンカー到着時間)
Aコース14:00 Bコース13:30 Cコース11:00

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 日出町 日出町教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭日出町実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 (ザビエルの道ウォーキング大会実行委員会)

119

瀧廉太郎記念音楽祭

開催日：平成30年11月4日(日)

開催場所：日出町中央公民館ホール



●実施状況

日出町は、音楽家の瀧廉太郎と大変ゆかりのある町です。廉太郎の先祖の瀧家が代々日出藩の家老などの要職を務めたことから、初代から11代まで、さらに瀧廉太郎の墓が日出町の龍泉寺に建立されています。

「瀧廉太郎記念音楽祭」は瀧廉太郎没後100周年をきっかけに平成14年から始められ、平成30年で17回目を数えます。今回は、国民文化祭特別企画として、世界を舞台に活躍する「東京オペラシンガーズ」をゲストに迎え、大々的に取り組みました。

第一部では、大分県内在住の音楽学者、古楽研究家の小川伊作氏が「瀧廉太郎再発見」と題し、講演を行いました。その講演内容に合わせ、大分県立芸術文化短期大学准教授の行天祥晃氏が同短大演奏員の吉本優喜乃氏のピアノ演奏をバックに、瀧廉太郎作曲の歌を披露しました。

第二部では、地元日出町のコーラスグループ「暘谷フラウエンコール」の合唱に引き続き、「東京オペラシンガーズ」が瀧廉太郎作曲の「花」「荒城の月」などを熱唱。また、世界的にも有名な小林万里子氏によるピアノ独奏も披露されました。

最後に「東京オペラシンガーズ」と「暘谷フラ

ウエンコール」の合同合唱が行われ、訪れた観客の皆さんは、素晴らしいハーモニーに酔いしれていました。

●プログラム

第一部 講演会

主催者あいさつ

講演「瀧廉太郎再発見」

講師：音楽学者、古楽研究家 小川 伊作氏

東京二期会会員、大分二期会副理事長 行天 祥晃氏

大分県立芸術文化短期大学演奏員 吉本 優喜乃氏

第二部 音楽会

第1ステージ 日出暘谷フラウエンコール合唱

第2ステージ 東京オペラシンガーズの合唱とピアノ独奏

第3ステージ 東京オペラシンガーズ・日出暘谷フラウエンコール合同合唱

●主催者

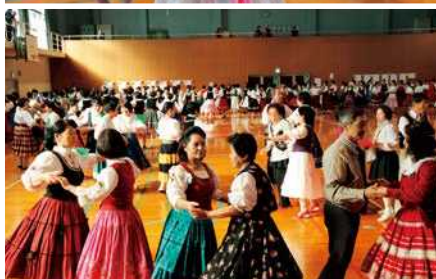
文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 日出町 日出町教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭日出町実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

120

フォークダンスの祭典

開催日：平成30年11月23日(金・祝)

開催場所：日出町中央公民館、日出町中央体育館



●実施状況

メキシコ民族舞踊団「アウイスラ」を特別ゲストに迎え、全国のフォークダンス愛好家が集う「フォークダンスの祭典」を開催しました。

開催前日の11月22日には、アウイスラのメンバー7人が日出町立大神小学校を訪問し、5年生、6年生90人と交流しました。メキシコの伝統的なフェスティバルや日頃の練習風景がビデオで紹介されると、児童らはメキシコの文化や歴史などについて興味深く質問を投げかけていました。次にメンバーからステップや振付指導を教わり、児童らはペアを組んで実際にフォークダンスに挑戦してみました。最後にメンバーが本番の衣装を着て華麗な踊りを披露すると、児童らは夢中で軽やかな動きに見入っていました。

23日の大会当日は、会場となった日出町中央体育館に、県内外から500人以上のフォークダンス愛好家が詰めかけました。

開会式で日出町長と日本フォークダンス連盟大分県支部支部長が主催者を代表して歓迎のあいさつを行った後、全国から集まった出演者は早速色とりどりの衣装に着替え、アメリカやアイルランドなど世界各国のダンスを披露しました。

大会の締めくくりにはアウイスラがメキシコ各

州の伝統的な踊りを披露し、華麗なステップに大きな拍手が送られる中、盛会のうちに幕を閉じました。

来場された皆様にはフォークダンスの魅力と楽しさが十分に伝わったと思います。またメキシコ民族舞踏団と交流した大神小学校の子ども達にとっては、他国の文化に触れるまたとない機会となりました。

●プログラム

11月22日(木)

メキシコ民族舞踊団町長表敬訪問
メキシコ民族舞踊の大神小学校交流事業

11月23日(金・祝)

開会式
フォークダンスの祭典
メキシコ民族舞踊団上演

●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 日出町 日出町教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭日出町実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、日本フォークダンス連盟大分県支部